



重量シャッター

主に、ビル等の開口部出入口に使用されるており、軽量シャッターに比較して大開口を仕切ることが出来ます。

「建物部品の防犯性能の試験に関する規則・別表1」ではスラット板厚1.2ミリ以上となりますが、現在は1.6ミリが主流となっています。

重量シャッターの概要

・防犯性能の高い(CP)重量シャッターの例

<ガイドレール構造>

板厚・溝深さによって、スラットこじ開けに対して強い構造となっている。現在の主流は

- ・板厚：1.6ミリ以上、
- ・溝深さ：60ミリ以上

である。
特に建物屋外側に露出する場合には二重構造とする。



<シャッターカーテン構造>

スラット板厚を確保することで切り破り、スラットこじ開けに強い構造となっている。現在は板厚1.6ミリが主流である。

<CPラベル>

シャッターカーテン下端の座板もしくは座板直上のスラットに対して、外観右端に貼付する。



<付帯事項>

屋外側にスイッチボックスを設置する場合は、防犯建物部品のスイッチボックスを使用する

重量シャッターのバリエーション

<特に防犯性能の高い重量シャッター>

防犯性能の高い重量シャッターの中で、油圧ジャッキによる座板こじ開けを考慮した対策を行ったものを特に防犯性能の高い重量シャッターとしている。

【抵抗時間】

侵入者がスラットこじ開けや座板こじ開けなどの行為を開始してから建物内部に侵入が可能になるまでの時間を「抵抗時間」と呼び、各商品ごとに定められた試験を行い、抵抗時間が5分間以上であることを確認されたものが「防犯性能の高い建物部品」(CP製品)として目録公表されています。

※ ご注意

CP製品は、客観的に評価された防犯性能を有する製品ですが、侵入を完全に防ぐものではありません。従って、侵入犯罪による物品の損害も同様に損害賠償の対象とはなりません。